

(Interprofessional Service Learning: ISL)			地演習(海外連携大学)	社会課題解決に取り組む。事前学習、現地演習、事後のバーチャルワークショップにより構成する。
---	--	--	-------------	---

2023 年度は上記の全科目のコンテンツを開発し、履修可能とした。専門職連携基礎、専門職連携実践 1、専門職連携実践 2 については IPERC での蓄積を基に、Cultural Competency and Cultural Humility については専門家であるメーカー亜希子氏のコンサルテーションを受けつつ構成した。社会課題解決基礎、社会課題解決応用では、社会課題解決のプロセスとスキルについて学ぶことを目的として、実際に地域における社会課題とその解決のための介入に取り組んでいる学内教員や、学外組織・施設等の支援者を講師として招聘し、事例について学ぶ構成とした。これには ISL のフィールドである活動や組織を含め、ISL につながるものとする。

2-2. 教材開発

2-2-1. 学習要項の作成

学習ガイドとして、前年度のものを見直し、改訂版の学習要項を作成した(資料 参照)。構成は、GRIP プログラム概要、獲得する能力・到達目標、具体的な学習の流れ、フィールド演習のトピック、使用する学習ツール、ワークシート、最終プレゼンテーションのテンプレートなどから成る。これらを必要最小限としてコンパクトにまとめ、オンラインならびに紙面でも提示した。

内容は GRIP プログラム申請時書類および、参加学生募集説明用資料に準拠しており、特に、獲得をめざす能力とその到達目標については同内容である。

2-2-2. ワークシートおよび学習成果発表プレゼンテーション用テンプレートの作成

ワークシートの作成

取得・向上をめざす 3 つの能力について意識して学習に取り組み、自己の成長と学習課題を認識して計画的に学習活動に取り組むため、現地演習について、初日には計画立案のためのプランニングシート、そして、最終日(8 日目)には計画達成状況の振り返りおよび、GRIP での向上・獲得をめざす IPCP、社会課題解決、文化的対応力(Cultural Competency and Cultural Humility)の 3 つについて自己評価をおこなうリフレクションを行うためのシートを作成し、提示した。

学習成果発表用プレゼンテーション用テンプレート

社会課題解決の能力の項目について焦点化するために、テンプレート化した。さらに、IPCP および文化的対応能力についても新たな気づきや自国との相違等について、発表項目として含めた。

2-2-3. 事前学習課題・資料等の作成

2-2-3-1 派遣・受入共通課題

IPCP および課題解決

2022 年度に引き続き、GRIP プログラム担当教員でもある IPERC（看護学研究院附属専門職連携教育研究センター Interprofessional Education Research Center）教員が主となって作成した本 GRIP プログラムの主な目的であり必須要素である IPCP 能力そして、IPCP での課題解決への取り組みに関するメディア教材を呈示し、事前のオンデマンド視聴を学習課題とした。加えて、WHO の” Framework for Action on Interprofessional Education & Collaborative Practice”(<https://www.who.int/publications/i/item/framework-for-action-on-interprofessional-education-collaborative-practice>)を教材として掲載した。

日本の地域包括ケアシステム

日本の地域包括ケアシステムに関する動画教材を作成し、全参加学生に提示した。SIU ならびに UL 学生が取り組む日本での学習テーマは自助および互助等の地域包括ケアシステムを基盤としている。また、本学学生が派遣先のインドあるいはイギリスにおいて取り組む社会課題も同様に人々の地域生活の支援であることから、その基盤となる知識として事前学習教材として提示した。

2-2-3-2 派遣学生への事前学習課題・資料等

SIU(シンビオシス国際大学)への派遣学生

本学よりシンビオシス国際大学(インド)に派遣する学生は、現地にて困難な状況にある子どもならびに女性への支援を学習テーマとして取り組んだ。それに先だって、事前のオンラインオリエンテーション時に、SIU よりインド、大学のあるブネ、そして現地の学習テーマならびに演習施設・組織に関する紹介がなされ、同オリエンテーションをアーカイブとして視聴教材として、文書教材と共に提示した。る文献を reading material として提示していた。

UL(レスター大学)への派遣学生への事前学習課題・資料等

レスター大学（イギリス）へ派遣する学生に対しては、現地での学習テーマであるホームレス支援に関して、レスター大学 GRIP 担当教員によりイギリスの保健医療システムおよびホームレス支援に関する動画教材等を作成し、事前に提示した。

2-2-3-3 受入学生への事前学習課題・資料等

千葉大学においては受入学生へのプログラムとして、災害準備、ホームレス支援、ソーシャルキャピタル創出の 3 つの学習テーマならびにフィールドを用意した。各学習テーマおよびフィールドについて学習要項とともに、日本と世界のホームレス支援に関する資料・訪

問施設が登場する動画、日本の災害と準備状況ならびにアプリの紹介、ソーシャルキャピタルとしての居場所となる訪問施設・組織等に関する資料を事前学習として提示した。学生の負担とならないように、一部は参考資料とした。

学生同士の交流ならびにチームビルディング推進

各大学内および大学間の学生の交流を推進するために、各学生の自己紹介動画(2, 3 分程度/人)を事前課題として課し、全参加学生がオンデマンドで視聴できるようにした。

日本において専門職間社会課題解決演習を実施する SIU 学生および UL 学生計 15 名については、3 つの学習テーマとそのフィールド（災害準備、ホームレス支援、ソーシャルキャピタル創出）について、学習テーマについて事前に各学生の希望を募った。希望をとりまとめ、学生の希望が充足されつつも所属や専攻等が多様となるように配置し、3 チームを形成した。来日前に提示し、渡航前からのチームビルディングを促した。

本学の派遣学生については、インドあるいはイギリスにおいて現地演習を実施する千葉大学学生については、渡航前にオンライン説明会を数回開催し、説明会に続き学生同士のミーティングとするなど、メタバースを提供する等して、本学においても同様に渡航前からのチームビルディングを推進した。

2-2-4. 学習用プラットフォーム（LMS：Learning Management System）の設定

Google Classroom 上でのクラス作成・設置

千葉大学利用の LMS である Google Classroom を 2023 年度の GRIP プログラムにおいても使用し、事前に派遣・受入両学生ならびに関係教員等をビジターアカウントあるいは特別聴講学生として登録し、教材提示、課題提出等のプラットフォームとして使用した。2022 年度には SIU の GRIP 担当者および SIU 学生が同フォームにログインできないでいたが、2023 年度は早期にアカウントならびにログインに関する資料を SIU 側に提示し、全員がログインならびに使用可能であった。UL 学生に関してはログイン上の問題はなかった。

メタバースプラットフォーム ovice のスペース構築

2022 年度に引き続き、メタバースプラットフォームを架空の共同学習室として使用するために GRIP プログラム専用スペースを契約し、本学、SIU、UL の 3 大学のロゴを配置し、独自の仕様として設置した。

2-2-5. 事後学習

事後学習としては、参加学生が現地演習最終日に学習成果として発表した各チームの学習テーマである社会課題とその解決方法としての既存の取り組みや、自国との差異や移転可能性に関する考察を含め、動画として LMS に提示する。いわゆるケースシナリオとして、学生が相互にそれらの動画を視聴し、フィードバックを行うこととした。それらのフィード

バックも含めてメタバース上に提示し、ケースシナリオ含めワークショップ形式として提示する。

2-3. カウンターパートとの連携

この GRIP プログラムでは、2022 年度はトライアルとしてシンビオシス国際大学(インド)と千葉大学(日本)とで、派遣・受入各 10 人計 20 人の学生交換を実施した。2023 年度はこれにレスター大学(イギリス)を追加した。さらに 2024 年度はモナシュ大学(オーストラリア)が加わり、参加学生人数も最終年度である 2026 年度には派遣・受入各 40 人、計 80 人となる予定としている。

以下、カウンターパートである、各大学との GRIP 開始までの交流の経緯と 2022 年度の調整・連携活動状況について記述する。

2-3-1. シンビオシス国際大学（インド）

2022 年度の振り返りとして、GRIP 推進室メンバーおよび SIU の GRIP 担当者らとで、5 月にオンラインミーティングを実施し、さらに 6 月には grip 推進室教員が SIU に赴き、対面にて 2023 年度実施に向けて検討を行った。2022 年度のトライアルでの実施を振り返り、2022 年度は初年度であり本プログラム採択から学生交換まで 4 ヶ月という非常に短期間での準備であったこともあり、十分な準備期間確保、リアルタイムでのオンラインオリエンテーション、学習目標の明確化、日本での演習のコンパクト化、JASSO や事後学習課題等の提出物の簡略化等の要望が SIU 側から出された。GRIP 推進室より、参加学生の多様化、効率的かつ遠隔での授業を可能とする LMS である Google Classroom へのログインの必須化と学生への支援、学生の体調不良防止としてインドでの演習時における空調設備のある車両使用、SIU から本学学生への単位認定・付与等を要望として提示した。その他、2023 年度の双方の学生交換日程、学習テーマ、緊急時の連絡体制等について検討・確認した。以降は随時、メールにて連絡を取り、調整を行った。

2-3-2. レスター大学（イギリス）

UL においては、2023 年 1 月に本学の GRIP 推進室メンバーが現地に赴き、学生交換実施のための検討を行った。同年 9 月には、GRIP 推進室より実務担当者が現地に赴き、派遣・受入双方について学生交換日程、学習テーマ、演習施設・組織、学生の滞在場所、緊急時の連絡体制、単位認定・付与等について検討した。その他、随時、オンラインミーティングならびにメールでの連絡・調整を実施した。

2-3-3. モナシュ大学（オーストラリア）

GRIP プログラムでは、モナシュ大学とは 2024 年度の学生交換実施を予定している。このため 2023 年 3 月には本学より GRIP 推進委員会メンバーが現地に赴き、現地の担当教員